第 47 回いそご文化資源発掘隊
横浜地図博覧会 in 磯子

開 催 日：2019 年 12 月 22 日（日）
開催時間：13 時～16 時
会　　場：杉田周辺＆リハーサル室
参 加 者：60 人
講師：
綱河功（造園家）
山岸丈二（花街研究家）
山崎洋子（江戸川乱歩賞作家）
故石黒徹（地図博士）ビデオ再生
NPO 法人横浜シティガイド協会の会員
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

開港 150 周年を記念して 2009 年、大さん橋において「横濱地図博覧会」というイベントが開催された。終了後、これを主催した実行委員会は、「このまま解散してしまうのはもったいない」とのことから、その後も各地で博覧会の開催、横浜市の広報誌への寄稿などを続けてきている。

今回の「いそご文化資源発掘隊」は同委員会のメンバーをお呼びして、磯子区に関する地図や写真、絵ハガキなどを使い、地域にかかわる歴史などをお話しいただいた。

美空ひばりを扱った第 45 回と同様、今回もキャンセル待ちの申込者が多数おられ、地元の歴史に興味のある市民がいかに多いか、またまた知らされる結果となった。

【プログラム】

１　磯子でお宝をさがしています
横濱シティガイド協会会員

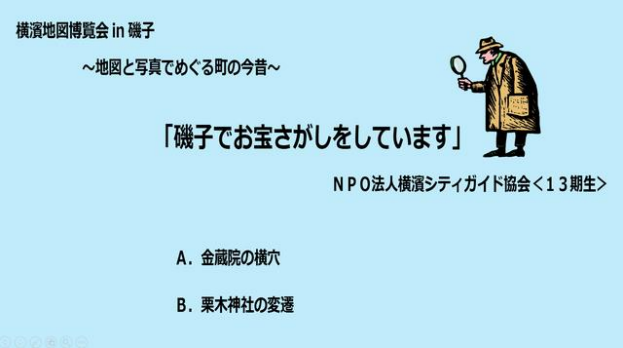
２　堀割川の誕生
綱河功氏（造園家）

３　磯子に花街があった頃
山岸丈二氏（花街研究家）

４　不死鳥伝説　美空ひばりと磯子
山崎洋子氏（作家）

５　日飛病院の謎
多根雄一（杉田劇場職員）

１　磯子でお宝をさがしています



A.金蔵院の横穴

金蔵院は磯子区磯子４－３－６にある。1328 年（嘉暦 3 年）、理空がこの地に海向山岩松寺を開いたのが始まりだという。お寺は磯子旧道に面した高台にあり、根岸湾に向かって建っている。山号はそのような立地環境を示しているようだ。

金蔵院の正面から右側に回り込んでいく

と、細長い墓地が続いている。そこに向き合うような形で小高い丘があり、裾に横穴が掘られているのが分かる。

今は鉄柵で囲われていて中に入ることはできないが、これは戦時中に使われていた防空壕なのである。

この横穴は内部で折れ曲がっていて、別の場所から外に出られるような構造になっているそうだ。

さて、金蔵院は海向山という名のとおり、海に向かって山門が開かれているのだが、こちらの防空壕の入り口はどっちを向いているのか？

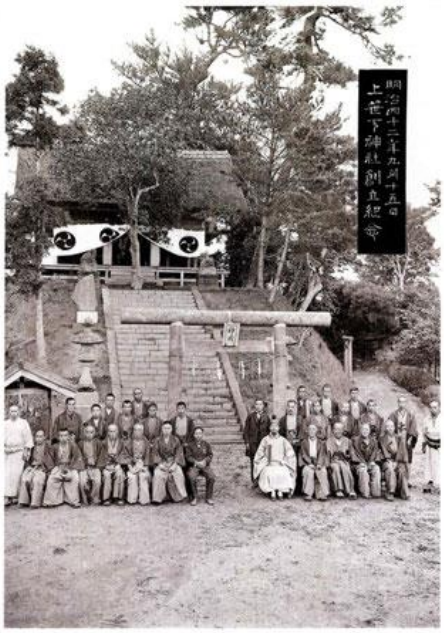
説明者の嶋田昌子氏によると、根岸湾に向かわないような方向でできているという。

万一、米軍が上陸してくるとすると、目の前の海岸から侵入してくるはず。そんな場合、防空壕の入り口が海側を向いていたら、簡単に発見されてしまうので、どこの防空壕も海側からは見えないような作りになっているのだとか。

B.栗木神社の変遷

栗木神社は磯子区栗木 2-13-21 にある。『新編武蔵風土記稿』によると、上笹下地区を構成する６か村には、次のような神社があったという。

①中里村には稲荷社・太神宮・山王社・山大明神社・駒形明神社・八王子権現社
②矢部野村には金山権現社・稲荷社
③田中村には神明社・御嶽社
④栗木村には山王社・石神社・駒形社・稲荷社・御嶽社
⑤峰村には稲荷社・白山権現社
⑥氷取澤村には荒神社



▲上笹下神社
写真には明治４２年９月１５日
上笹下神社祈命
と書かれている。

大半が和服であるが二人だけ洋装の男がいる。奈川県か横浜市の役人だろうか。

各村にあった神社が一か所に集められて神笹下神社になった。場所は現在の栗木神社と同じ。

しかし戦後、それぞれ６か町に戻り、上中里神社・金山神社・田中神社・栗木神社・峰白山神社・氷取沢神社となった。

▲栗木神社は、神奈川県内でも３つしかない茅葺の神社の一つ。

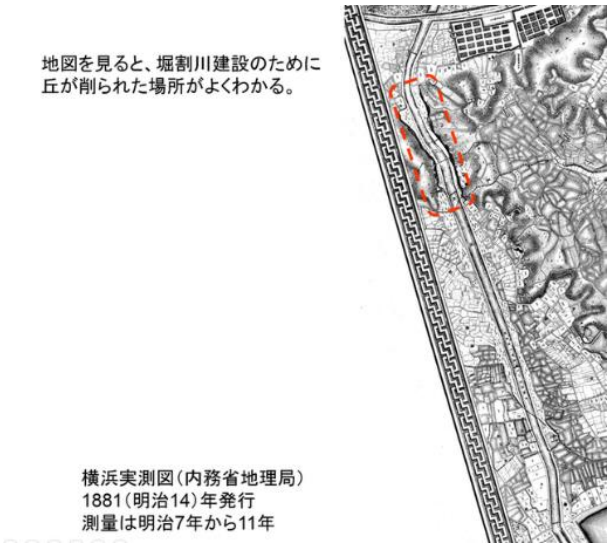
２　堀割川の誕生

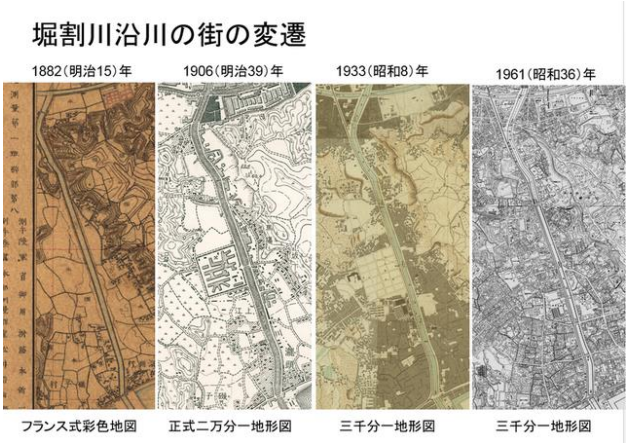
堀割川の建設目的

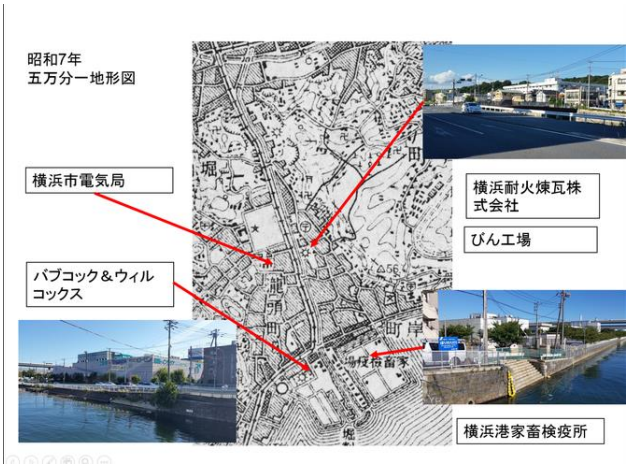
① 市街地拡張に伴う吉田新田一つ目沼の埋め立てのための土を得る。

② 舟運の利便性向上。

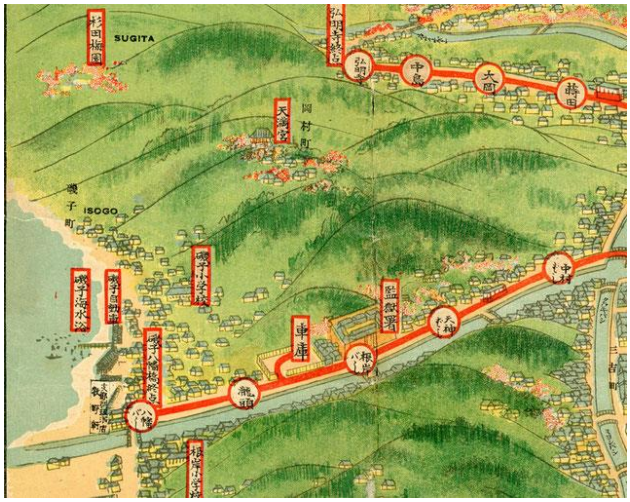
③ 未開拓だった滝頭・磯子エリアの開発を行う。







3　磯子に花街があったころ



かつて磯子の海は、砂浜が広がり、海水浴場がありました。

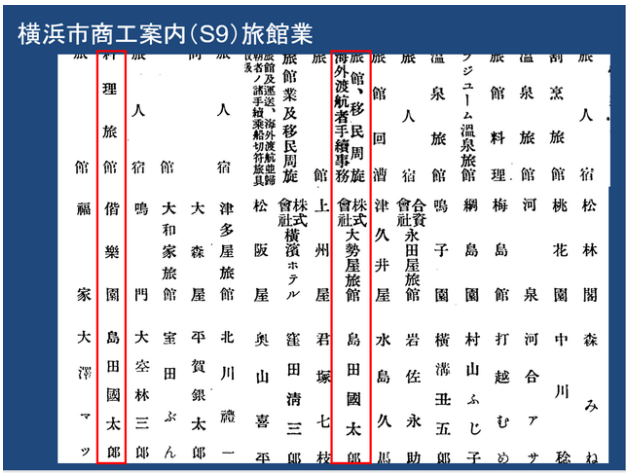
この辺りは風光明媚な場所で、横浜の財界人や外国人たちの別荘や保養所ができました。

それが、大正時代に料亭が並び芸者の三味線が聞こえる花街＝二業地へと発展しました。

場所は、今のバス停『浜』から磯子区役所の南まで、16 号線の海側の戦前の埋立地になります。

ちなみに二業地とは料理屋と芸者置屋がある場所で、これに待合茶屋（料理は出さない・宿泊あり）が加わると三業地になります。

磯子花街随一の巨大料亭は偕楽園でした。偕楽園は、大正 15 年創業、明治 40 年の梅乃園や大正 11 年の磯子園と並ぶ老舗料亭で、海軍の利用も多く、昨年火災で焼失した横須賀の料亭「小松」と同様、海軍料亭と呼ばれていました。さて、この偕楽園の経営者は何者なのかという謎があります。



これは、昭和 9 年の横浜市商工案内です。

赤枠の右側は、関内にあった海外移民の人々が多く宿泊した移民宿「大勢屋旅館」、左枠は「偕楽園」ですが、経営者は同じ「島田国太郎」となっています。

偕楽園は、移民宿の組合である「横浜外航旅館組合」により昭和初期に開館しました。

昭和 8 年の地図。偕楽園は左下の海に面した場所にあります。

偕楽園は、根岸湾の開発による海の埋め立てが進み、また遊興地も関内などの中心に移り、昭和 43 年に閉館しました。

八幡神社の球体が乗る石碑には、「磯子二業組合・芸妓組合」の名があります。

磯子の海とともにあった磯子花街も、埋め立てにより海が遠くなり無くなりましたが、街には僅かにその名残が垣間見られます。

磯子二業組合の組合長で、地元の実力者の葦名金之助は、葦名橋や日枝神社に名前が残ります。

４　不死鳥伝説　ひばり

昭和１２（１９３７）年５月２９日、磯子区滝頭にて加藤増吉、喜美枝の長女、加藤和枝として生まれる。

この年、日中戦争始まる。

４年後、太平洋戦争へと拡大。

昭和１８年　父・増吉が海軍へ。

昭和２０年　５月２９日（誕生日）、横浜大空襲。

８月６日広島に原爆投下。８月９日長崎に原爆投下。

８月１５日　終戦。

加藤和枝　８歳。

昭和 30 年代の滝頭。美空ひばりが子供時代を過ごしたころと、それほど違いはなかったのではないか。下は昭和 60 年代の風景。

昭和 30 年代の杉田商店街。

見えにくいが左側の中ほどに「菓子一」というお店の看板が見える。

ここは大正時代の創業という老舗の菓子店で、昭和 21 年には売込中の美空ひばり（当時は加藤和枝）が母親と一緒に来て歌っていった。

「菓子一」の右隣には「芝時計店」がある。そこにも母娘が一緒にやって来て、店頭で一曲歌わせてほしいと。

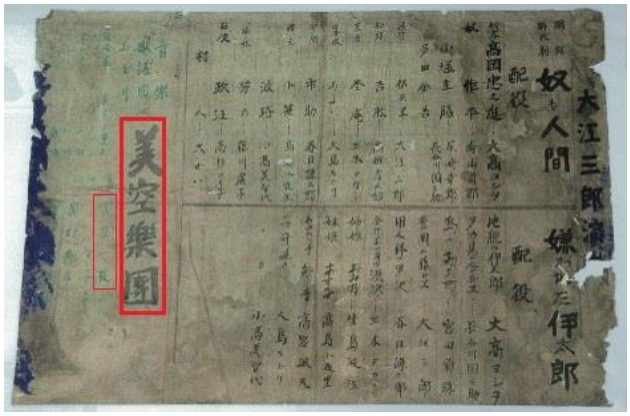
店主が祖母から聞いた話では、ミカン箱を置いて、その上に乗って歌っていったそうだ。

ひばり一家が滝頭の通称「屋根なし市場」にあった生家から引っ越した家。2 番目に住んだ家の敷地は 100 坪。屋敷は 40 坪。

家族団らんの中には常に音楽があった。

出典：上は『美空ひばりプライベート』（2005 年）
下は『美空ひばりプレミアムブック』（2017 年）

美空ひばりが初舞台を踏んだ「杉田劇場」。場所は市電の終点「杉田」の斜め前だった。



当時のポスター。美空楽団の横には「美空一枝」という芸名が書かれている。

取壊し前のアテネ劇場（磯子２丁目）・伊東秀一氏提供

昭和 21 年 9 月、ひばりが 9 歳のときに出演した「アテネ劇場」。

劇場はその後、「磯子映画劇場」と名前を変えて続いていたが、映画が廃れてくると閉館。

写真は昭和 50 年代に撮影したもので、このころは廃屋になっていた。

今、跡地にはマンションが建っている。

出典：『浜・海・道Ⅱ』（磯子区役所）

間坂のひばり御殿（昭和28年）・朝日新聞社提供

昭和 28 年、ひばりは 16 歳で「ひばり御殿」を建てた。上の写真は同年 8 月に行われた上棟式で撮影したもの。

場所は磯子台。根岸湾が見渡せる絶好の高台だった。敷地は 900 坪で建坪が 400 坪もあり、部屋数は 15 室、プール付き。

この豪邸は当時のお金で 4,000 万円くらいだったろうと言われている。

ひばりの父親が経営する鮮魚店「魚増」の従業員たちは、番犬代わりに御殿で寝泊まりしていたそうだ。

昭和 32 年 5 月、ひばり 19 歳の時、中区若葉町に「美之寿し」を建てて営業を開始。

写真はそのお祝いの席で撮影されたもの。

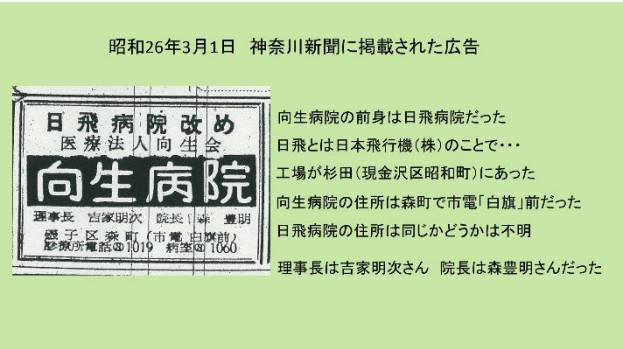
2019 年 6 月 24 日に開催した「美空ひばりが立った磯子の劇場」座談会に登壇して美空ひばりに関する昔の思い出を語ってくれた鶴田さんは、ここで働いていた。

寿司屋はその後、レストラン「おしどり」となり、最後はクラブに転換して消えていった。

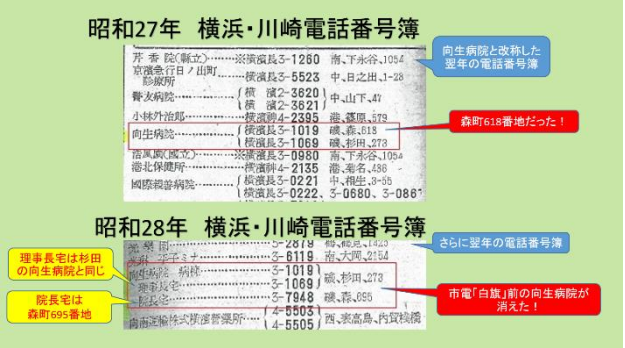
5　日飛病院の謎

美空ひばりや旧杉田劇場の情報を探すため、昔の神奈川新聞記事を漁っていたら、こんな広告に出会った。

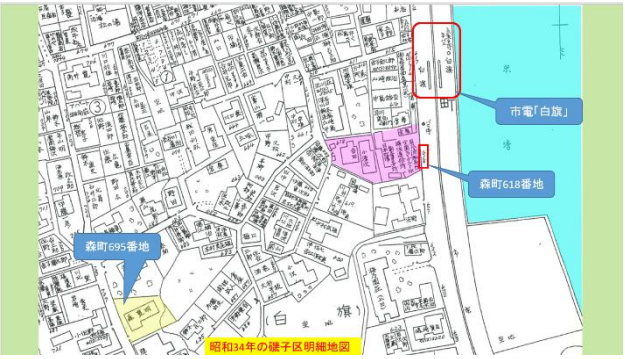
日飛病院改め向生病院！



かつて杉田にあった向生病院の前身は日飛病院だったことを知った。しかもそれが杉田ではなく森町にあったというのだ。

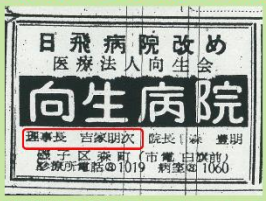


電話番号簿で確認すると、森町と杉田にあったことが分かった。



昭和 34 年の地図で確認。

吉家明次理事長のご子息・吉家世照さんから



貴重な写真をいただいた

今までは新聞広告だけの情報だったが、当時の写真を入手することができた。

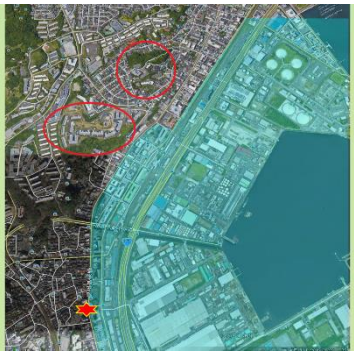
まるで料亭か別荘のような雰囲気

所蔵：吉家世照さん
以下すべて同じ

日飛としか映っていないが、明らかに病院の案内が出ている。

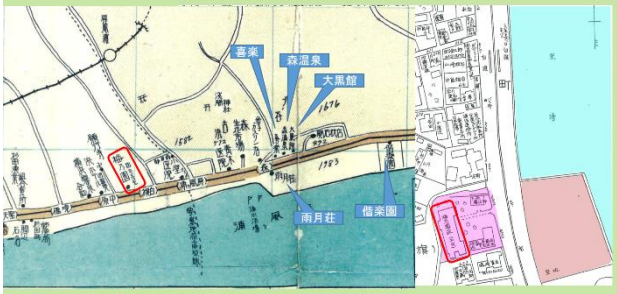
この丘はどこ？
海？
護岸？
道路とは思えないが
市電の架線・線路敷きは見えない
傾斜がある

この場所はどこなのか？



航空写真でみるとこんな感じ。

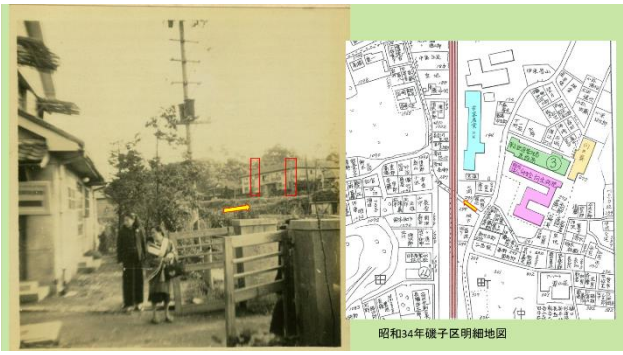
赤丸が住所の書かれた場所。ピンクに塗った部分が料亭っぽい場所。



海沿いには料亭が並んでいた。はたしてこの場所だったのか…不明。

杉田にも日飛病院があった！

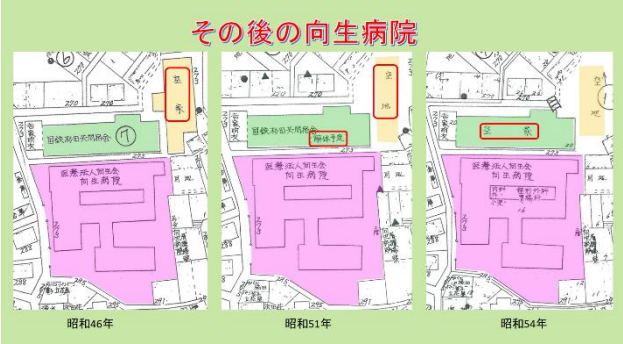
杉田の向生病院が日飛病院だったことが分かる写真があった。



昭和 34 年の地図で調べてみると、この写真は向生病院の場所であることが分かる。

この建物が病棟だったそうだ。

三船敏郎は中原に住んでいた。



現在はマンションが建っている。

【了】